

コロナ対策を斬る

空気感染対策を取らない行政の不作为

防げたはずの感染拡大

(株)あかりみらい代表取締役 越智文雄氏



(おち・ふみお)1957年12月札幌生まれ。北大法学部卒業後、北海道電力入社。97年電気事業連合会企画部時代にCOP3に立ち合い、2008北海道洞爺湖サミット環境総合展事務局長、環境問題・エネルギー問題、日本に除菌連合会長、札幌ネットワーク主宰。64歳

先の参議院厚労委員会での川田龍平議員の質問に対して厚労省は次亜塩素酸水の安全性にはエビデンスがない、海外では使われていない、WHOが空間噴霧を禁止しているという事実と全く異なる答弁を行なった。日本で発明された最も効果があると期待される資料に対して研究もせず、海外調査もせず、WHOの通達を捏造する、このような姿勢がいまも空気感染を拡大し犠牲者を増やしている。

先月薬害エイズ事件の原告団として厚労省と戦った川田龍平議員の政策パーティーに出席した。改めて政府を相手に母子2人で戦いを始めたその勇気と信念に感嘆した。

この薬害エイズ事件を解説すると1980年代に血友病患者に加熱処理によるウイルス不活化をしていない非加熱製剤を治療に使用したことで多くのHIV感染者とエイズ患者犠牲者を産み出した厚労省最大の汚点である。

これがなぜ歴史的汚点であり犯罪的行為であったかという点、犠牲者を大勢生み出すことになることがわかっていながら政府が非加熱製剤を禁止しなかったことにある。ミドリ十字の利権であり厚労省が加担した事は訴訟の結果明らかにされている。非加熱製剤が在庫処分されるまで

の期間、厚労省が加熱製剤の承認を遅らせる調整を行なったという許されない事実も告発されている。

さて今コロナの感染拡大から3年が経った。「次亜塩素酸水の不都合な真実」と題して連載してきたが、この本質は薬害エイズ事件と変わらない。厚労省は早くから新型コロナウィルスの感染拡大の最大の原因が空気感染であることを知りながら飛沫感染と接触感染の対策のみを行ない、換気ができない場所での積極的な空気清浄化対策を行なわなかった。「窓を開けて換気しよう」と言ってきたという責任逃れはあっても、窓のない部屋はどうするのかという当然の疑問に対しては答えてこなかった。アクリル板を立てようがアルコールで手を洗おうが空気感染には関係な

い。マスクは咳エチケットには有効でもウイルスを呼気として排出し吸い込む。空気感染であれば換気と空気清浄化以外には方法は無いのである。経験として証明されている通り、真夏の猛暑の中で窓を閉めてクーラーを全開にしてオリンピック観戦をし感染が拡大した。このひと月でも北海道から東北へと冬の換気できない地域から感染が始まっている。今すでに冬を迎え北海道で窓を開けて暖房するならば今のエネルギー価格では家計も自治体財政も破綻する。政府は国土のほとんどの地域で換気ができないことをわかっていながら何の対策も取らないでいるのである。

これはダイヤモンドプリンセス号の時点でもわかっていたことであり、船の中の空調循環により閉じ込められた人たちに感染し全国に拡大し

ていった悲劇は防げたのである。

薬害エイズ事件と共通するもの

なぜこんなことが起きたのか。最初のうちは誰にも分からなかったウイルスの感染対策が試行錯誤だったことは許せる。WHOをはじめはマスクは不要だと言っていたし、空気感染が原因だとCDCが発表したのは昨年5月だった。では昨年のCDCの発表後に今年の3月まで日本政府が空気感染を認めなかったのはなぜなのか。これが単なる専門家の勉強不足と官僚の無能ならば犯罪ではないが、薬害エイズ事件のような薬品会社の利権による工作と官僚の忖度であったならばどうだろうか。連載してきたように次亜塩素酸水が新型コロナウィルスを不活化する事は政府の試験で認められており、これを空間に気化することでノロウイルスや新型インフルエンザの感染予防に使われてきた事は厚労省も認知している。

日本で発明された次亜塩素酸水の技術は世界に輸出されアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、中国、台湾、韓国、ベトナムなど世界中で活用されている。北京オリンピックでも盛大に噴霧されていた事は世界に報道された。空気感染対策に次亜塩素酸水の噴霧が有効である事は世界が認めており日本でも20年以上の実績があるのである。この事実を目をつむり活用できるものを採用しなかったことが行政の不作为であり罪である。さらに犯罪的行為として汚点を残し

たのは政府機関の試験結果の発表を捏造してまで妨害してきたことである。なぜか。医薬品でないものが新型コロナウィルスを感染防止してしまふことへの薬品業界と厚労省の妨害であった。また500億円もの政府補助を出したアルコール業界の売り上げを損なう安価で効果のある次亜塩素酸水業界を潰してしまおうという陰謀であった。

アルコールでは空気の清浄化はできない。アルコールを噴霧して火災や健康被害を起こした例は多くあり、アルコールはモノの拭き取りか手洗いにしか使えない。空気感染が原因だとしてしまうと接触感染対策のアルコールが売れなくなってしまうのである。だから新型コロナウィルスは接触感染と飛沫感染だと言い続けたかったのである。

次亜塩素酸水がアルコールに取って変わると500億円もの補助金が無駄になるため厚労省もメンツをかけてアルコール業界をかばったのである。

行政の不作为が招いたもの

空気感染対策がなおざりにされたのは利権のせいであり陰謀である。一部の業界の利権と一部の厚労省官僚による忖度が本当は防げたはずの感染を広げた。換気ができない部屋の換気対策を積極的に推奨していれば感染しないで済んだ人がどれだけいたことか。感染して重症化して高熱に苦しみ抜いて死亡した人たちとその遺族に考

えが及ばなかったのだろうか。マスクをし、手を洗い、距離をとり、アクリル板をおいても感染が止まらなかったのは空気感染だったからである。これを認めても今まだ政府も自治体も保健所も空気感染対策を積極的に取ろうとしていない。現実的で効果的な対策がわかっていながら対策を取ろうとしない。これを行政の不作为という。この次亜塩素酸水を封じ込めようとした業界利権の責任は今後国会と裁判所で明白にするしかないが、いま目の前にある空気感染を防ぐには空気清浄機と次亜塩素酸水の気化器しかない。ただし空気清浄機はその部屋に感染者が入ってきたとしてその室内のウイルス混じりの呼気を回収するのに数十分かかる。次亜塩素酸水を気化して室内に充滿しておけば感染者からのウイルスは数分で不活化される事は実験で証明されている。

超音波加湿器の水道水の代わりに薄い次亜塩素酸水を入れて気化すると室内がプールの室内と同じような環境になる。これで大概のウイルスは死滅するのである。

もうすでに窓を閉めた冬の生活の中で第8波が始まっている。ここに使える手段がある。自分と家族の命は自分で守らなければならず、保健所や自治体は住民の命を守るために愚かな陰謀などに惑わされずに正しい対策の周知を行なうてほしい。

詳しくは次亜塩素酸水溶液普及促進会議のホームページをご覧ください。